

# A 「他の移動との重ね掛けによる効率化」実証事業概要

自家用車中心・  
中規模都市

福祉介護MaaSプロジェクト（香川県 三豊市）

## 地域課題に関する現状認識

- ▶ 市域が広く中心市街が存在しない構造の為、**自家用車を中心**とした移動に依存
- ▶ 高齢化の進展及び免許証自主返納者の拡大により、**買物等**における**移動困難者が増加**
- ▶ また、高需要の福祉分野においては、慢性的な**介護職員不足**もあり、限られた車両で多人数を同時に送迎することから、施設利用者の移動時の負担が大きい
- ▶ 福祉介護施設にとっても、それぞれの施設で**単独に送迎**を行うことは経済的にも大きな負担となっている

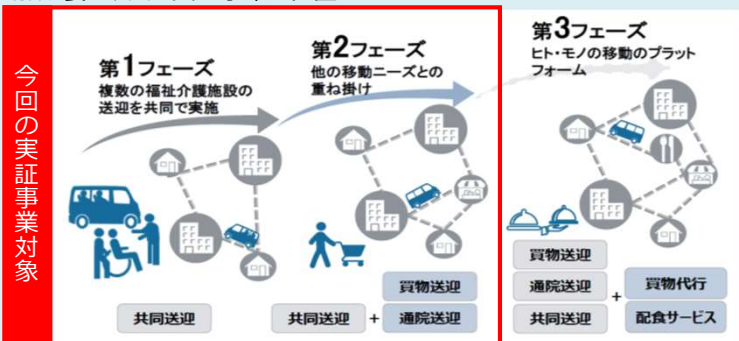
福祉介護施設における新しい移動サービスモデルを実装することにより、  
地域の移動課題の解決及び地域活性化を目指す。

## 地域交通サービスの将来構想

上記の現状認識を踏まえ、下記3つのフェーズによる新しいMaaSプロジェクトを始め、地域交通サービスの将来の課題を解決する。

- ▶ まずは、各施設がそれぞれ単独で行っている送迎を集約し、**地域一体で乗り合うAI活用型共同送迎モデル**に変えることにより、施設利用者、介護職員、施設の負担を低減させる、新たな移動サービスを確立する。**(第1フェーズ)**
- ▶ 次の段階として、通所日以外の日中（概ね10時から15時の間）の時間帯で、**買物立ち寄りや通院等の他の移動ニーズとの重ね掛け**も計画。**(第2フェーズ)**
- ▶ また、その先には**車両空き時間**を活用して、**配食、買物代行等のモノの移動**も重ね掛けし、“**移動困難者ゼロ**”を目指す**(第3フェーズ)**。

▼ 将来、目指す姿と今回の実証事業の位置づけ



## 実証事業の概要

**実証事業**：AI活用型共同送迎モデルと車両空き時間を活用した買物送迎等

【これまでの取り組み】 令和元年に三豊市とダイハツ工業は**連携協定**を締結した。全通所介護施設へのヒアリング調査を踏まえ、第1フェーズの**事業性を検討**。将来の方向性について、全通所介護施設に説明した。

【概要】 施設それぞれが単独で行っている送迎業務を**社協が集約し、AI活用型共同送迎モデルにより地域一体で行う**ことで、効率化を図り、施設利用者の**移動の負担を軽減**する。

また、**車両空き時間**を活用して**買物送迎等**をサポートする。

【検証事項】 **AI・IoTを活用した運行管理システム**により最適な経路を計算し、利用者の**乗車時間・距離**を10%低減。また、車両台数を10%低減すると共に、送迎業務の外部委託で介護施設の**コスト・時間負担**の10%低減を目指す。本事業は事前調査と結果を比較し、効果を見極め、**集約化**にすることによる事業実施が各施設に受け入れられるかを検証する。また、**車両の空き時間**を活用して**買物送迎等**の他の移動サービスとの重ね掛けによる有効性についても検証を行う。

**その他の検討業務**：第3フェーズに向け、モノ輸送の可能性を調査する。

- A. 他の移動との重ね掛けによる効率化
- B. モビリティでのサービス提供
- C. 需要側の変容を促す仕掛け
- D. 異業種との連携による収益活用・付加価値創出
- E. モビリティで関連データを取得、都市・交通政策との連携
- （横断的取組）自動走行を活用したMaaS

## 実施体制

団体区分	団体名（実施内容・役割）
代表団体	三豊市（全体統括、実証事業取りまとめ主体）
参加団体	三豊市社会福祉協議会（体制づくり、人員・車両の確保、実証事業の実行） ダイハツ工業（共同送迎運行システム提供、業務フロー構築、実行サポート、結果分析） 市内福祉介護施設4法人5施設（実証事業への参画、車両貸与）